

彫刻表現制作法研究 I

池 川 直*

(2017年10月24日 受理)

A Study of Sculpture Expression and Creation I

IKEGAWA Sunao

要約

彫刻制作の表現とその過程を通し、彫刻の表現テーマと素材について1992年から2017年までの研究の成果を論じたものである。本稿では、自らの彫刻表現の発想と構成の方法について触れ、その方法により学生作品を指導する過程でのやりとりの中で、量塊・バランス・面などの彫刻表現要素について論じた。また、いくつかの同一テーマで異なる素材を使ってつくった自らの彫刻作品を比較し、彫刻表現での素材と表現の関係性について考察した。

キーワード：彫刻，発想，構成，素材

はじめに

旧石器時代に描かれたスペインのアルタミラ洞窟に描かれた動物画は、人類の描く絵画の起源の一つであり、洞窟内の壁面の凹凸を利用した描写方法には彫刻的解釈が見られる。物体をより立体的に見せるために岩盤の膨らみを動物の胴体の膨らみに見立て水牛や鹿の姿を描いた。この絵の目的は、狩猟の対象になる動物に対する畏敬の念とか、狩猟方法を皆で検討するなどさまざまに解説がされている。確かに平面的な描写よりも立体的な描写の方がより現実味のある動物像と感ずることは、立体を認識させる光要素が乏しい洞窟内においては、わずかな光によって認識できる立体のほうがより効果的であることを、当時の人たちは考えたのに違いない。造形表現の原点ともいえるこうした絵画や彫刻から発生した造形表現は、人類の生活に必要な工芸、その後近代にはデザインを生み出した。筆者は、これまで「具象彫刻におけるデフォルメ」(註1)、「素材の違いによる表現方法研究 乾漆技法研究」(註2)など、実際の彫

* 鹿児島大学教育学部 教授

刻制作を通し、彫刻の素材と表現について研究を始めて既に35年になる。その成果は、公募展(註3)、コンクール(註4)、個展・グループ展(註5)で公開してきた。本章において、これらの作品制作を通し、彫刻表現の特に具象表現彫刻についてその制作方法についてその結果についての検証を行うことにした。その方法として、本章では彫刻の表現要素である面、量、バランス、動勢について彫刻制作においてこの要素がどのように表現にかかわっていくのか、また素材と表現の関係、彫刻と環境の関係性について論じていくことにする。

1 彫刻の発想について

彫刻を始めるにあたり、まず大学では模刻から頭像制作、その後人体モデルを使って縮尺像、等身大立像の制作へと移行するが、家庭や学校でもこどもが成長するにしたがって立体物をつくることはその過程の中で行われてきたことである。専門的になるにしたがい彫刻の要素としての面、量、バランス、動勢について深められていくのであるが、元来造形とは作り手が思うままに、感じることを表現することにあり、粘土遊びをする幼児の段階からすでに始まっている、この時期「この場面を作りたい」「この物体を作りたい」という自然な欲求から造形に発展していく。このときの欲求こそが造形の発想でありその本質といえる。

ここでは、大学生の造形活動に焦点を合わせて彫刻の発想について論じることにする。彫刻表現が段階的に指導されることは、前述したとおりである。共通する点としてはいずれも人物モデルを使うことである。紀元前より人物像制作は彫刻の大きなテーマであった。それは彼らが現実に存在した尊敬する人物や、目には見えない神を人物像として表現してきた彫刻を見てわかるとおり「人物像」は、人類のもっとも興味ある対象でもあった。それを正確な形として表現することが、当時の表現技術であったことは紛れもないことであるが、現代に生きる私たちがその像を見て、感動を覚えることはそれだけではなく、対象をどのように感じ、何を表現しようとしたのか、あるいはそこから浮かび上がる人物像に何かを感じるものが名作といわれるものといえる。いわゆる見える対象物を正確に、さらに自らの思いをこめた形体として表現しようとする必要があることであろう。

以前、自身の発想の方法として、ある美術雑誌に寄稿した文章を紹介しよう。

「出合った風景や人を彫刻のテーマとして意識して制作するようになって10数年が経つ。素材はブロンズ、石、木の中から表すかたちが最も生きる素材を選ぶ。これまで連作《海》、《ボセイドン》、《恋人たち》、《少年の記憶》があり、大半の彫刻は幾つかのかたちを組み合わせたものである。今から5年前、ブランクーシ生誕の地でトラバーチン大理石を素材に《恋人たち》を制作する機会があった。〈浮遊する恋人たちを石塊から軽やかに表現する〉この命題は石素材の重量感と彫刻的量感という一見矛盾したテーマでもあった。エスキースとして持ち込んだブロンズ《恋人たち》をもとにした彫刻を見た現地の人は、驚くことに古くからその地で語り

継がれてきた伝説の中の「^{ドラゴベエテ}DORAGOBETE」(恋人たち)と言った。その後ルーマニア滞在の風景や人との感動の記憶から連作《恋人たち》の1つとしてブロンズ《ルーマニアの森から》が生まれた。

組み合わせるかたちは人物に限らない。「犬」,「馬」,「羊」。人と動物との組み合わせは何ともいえない物語性をもつ情景をつくることができる。近作の《ボルテラの詩人》,《少年の記憶 V》は, 18年間連れ添った薩摩ビーグル犬の記憶とエトルリア(古代イタリア)の街, ボルテラの石畳の風景や人々の記憶を組み合わせたものである。

連作《海》,《ポセイドン》,《恋人たち》,《少年の記憶》どれもが私の頭の中の引き出しのようなところに納まっている。これからもあの風景や人を思い出した時, その引き出しを開けることにしよう。さらに発想の引き出しの中の引き出しが増えていくことを楽しみに過ごしている。」(註6)

文中にも登場する作品《ボルテラの詩人》(註7)(写真1)は, イタリア中部の都市である Volterra を訪れたときの印象を表したものである。このボルテラという街は紀元前古代エトルリア人が築いた街で, 線的に細長く引き伸ばした人物像が多数残っている。彫刻家ジャコモッティー(1901~66年スイス)は, この人物像に触発されて自らのつくり出す形体として完成させたといわれている。本作品は, この街を訪れた後, すぐに制作にかかったものではない。約7年後, 私の飼っていた老犬をどうにか「かたち」として残したいこともあり, 当時一人旅したボルテラの街のイメージと, 犬を組み合わせとして過去を思い出し, 両者が仲良く街を散歩している情景を表現した。このように頭から離れない画像のようなものを立体に表現することが, 自身の発想方法のひとつといえる。この画像のようなものを自身は, 「情景」といっている。(原文より)



写真1 ボルテラの詩人

2彫刻の構成について

彫刻は具象、抽象を問わず、「構成」という概念が必要である。面、量、バランス、動勢といった彫刻の要素についてもこの彫刻の構成に複合的にかかわっている。この4つの要素はどれ一つとっても実際の彫刻制作にとって単独では存在せず、この要素が関連して一つの立体を形成する。彫刻が空間の中に存在し、形体の美や存在感、意匠性を主張させるためにもこの4つの要素での「構成」が必要となる。たとえば人体立像の制作の場合、まずモデルになる人物のポーズのデッサンから始める。まず、自分の表現したい動きであるとか、表したいテーマにそって手や足などの動きを決定する。次に、部分から描き始めるのではなく全体の動きの流れを描画材で追いながら、その大きな流れの線をなぞりながら頭部から胴体部、腰部、脚部の詳細を描く手順で進めていく。その大きな流れのことを、その像の「動勢」と呼んでいる。平面的な描画であると動勢は1つであるが、360度全方位からの動勢となると極端な話、360枚の素描によりその人物の動き、つまり動勢が決定されていくことになる。さらに、その動勢には線的なものが何本も描かれていくと面となっていくことに気がつく。この面の手前のものと奥のものを線に強弱をつけていくと、強いものが手前に、逆に弱いものが奥に感じるようになる。このことが「面」を意識した「動勢」の考え方といえる。また、それにともないそれぞれの体の部位が変化するポイントに線の強弱をつけることにより、空白であったデッサン紙の中にリズムよく示されていくことになる。これにより「人体の動きのバランス」というバランスの考え方が出てくるようになる。これら平面上での事がらを立体に表すには、頭の中でさまざまな角度からの素描として連写されなければならない。たとえば古代ギリシア彫刻では、初期クーロス（男性像）、コレー（女性像）では、右足を踏み出した静的な動きであるが、そのうちコントラポストと呼ばれる片足に重心をかけ、逆足（遊脚）を弛緩させることにより重心側の腰が遊脚の腰に比べ高くなり、肩はその逆の位置をとり、重心側の下がった肩がひかれて体軀はひねられる表現方法で、人物が自然な流れで安定した動きを表す方法を考案した。この方法は、現代の造形方法においても彫刻あるいは立体造形が空間に存在するための「構成」の重要な考え方の一つともいえる。以下、学生作品の人物モデルを使った制作過程のなかで「構成」について考えていくことにする。

次の写真 a～b は学生制作による裸婦女性像制作初期段階のものである。a'～b'のものは、それぞれ私の指導により修正したものである。左足重心、右足遊脚のポーズをとることから左の骨盤が右に比べ上がる。そのバランスをとるために左肩に比べて右肩が上がり、前部にやや突き出すことになる。そのために上半身が臍部を中心に（厳密に言えば下部腹直筋）体軀は左にひねられるコントラポストを示す。これが a' のように正中線を明確に示し、線が示す正面の方向性＝面の方向を意識することが重要である。（b から b' についても同様）



a 正面



a'



b 右



b'



c 背面



c'



d 左



d'

3彫刻素材と表現について

彫刻表現は塑造表現と彫造表現、集合表現の3つに大別される。塑造表現は可塑性である粘土（土粘土、油粘土）で塑形する技法であり、彫造表現は石、木などの実材を彫ってつくる技法、また集合表現は金属などの素材を溶接・溶断してつくる技法である。それぞれの表現技法は、表現される形体を最も効果的に表現するにはどの表現技法が適切であるかで選択されなければならない。たとえば、動きのある動的な人物像を制作する際、石や木などでの彫造技法を使ったのでは、人物の動きの軽快な動きは表現できない。また、逆に量感のある形を表現する際、塑造表現よりも素材が持つ石の肌合いや木の年輪などの質感が重要な表現要素にもなってくる。

以下の筆者制作の彫刻作品事例は、同一テーマでの塑造表現と彫像表現の制作法の違いについてその効果とねらいについて考察する。

(1) 作品テーマ「伝説の島」

塑造表現で制作した以下の作品 A, B をもとに彫造技法で硬質石（ブルーパール）を使い C を制作した。本作品は、アイルランドの伝説をもとにして、フランス地中海沿岸地域を旅した際に見た海の風景をイメージして、横臥する人物像と人体を想像するオブジェを組み合わせたものである。A, B は C に比較して、シャープな形体であることを印象付け、特に横臥する人物表現の動きに柔らかさを感じさせる。逆に C は A, B には見られない塊としての量感の強さが印象付けられていることに気がつく。このように量塊の表現には彫造表現が適切であることがいえる。

A 作品《伝説の島―照らされる海》(註 8) (写真 2)

B 作品《伝説の島にかかる月》(註 9) (写真 3)

C 作品《伝説の島》(註 10) (写真 4)



写真2 伝説の島-照らされる海



写真3 伝説の島にかかる月



写真4 伝説の島

(1) 作品テーマ「恋人たち」

本事例も(1)同様の制作過程を経過したものである。Cは中軟質石(トラバーチン大理石)を使用したもので、同じ石素材を使用した(1)-Bの素材よりも細かな造作は比較的し易い素材といえる。(1)(2)での塑造表現の素材は、いずれもブロンズであり、その制作技法については特殊な技術を要する。そのため、一般的にはブロンズの間素材としてのFRPや石膏として制作する。ブロンズ技法にしても真土型、ガス型、蠟型があり、それぞれの特長がある。特に、蠟型に関しては他の技法が原型(中間素材)の再現といった考え方よりも、原型からさらに蜜蠟による塑造、塑形によりその独特な味わいを彫刻に生かす特性があることは、紀元前エジプト、ギリシアから彫刻制作技法の中で証明されている。Dは楠材を使い、塊から掘り出すことで塑造表現にはない丸みを帯びた表現になる。また、木素材ならではの木目、木肌がその形体に軽快感を与えているようにも思える。

A 《天空のふたり》(註 11) (写真 5)

B 《ルーマニアの森から》(註 12) (写真 6)

C 《DORAGOBETHE》(註 13) (写真 7)

D 《恋人たち》(註 14) (写真 8)



写真6 ルーマニアの森から



写真7 DORAGOBETHE



写真8 恋人たち

4環境と彫刻について

彫刻が建造物や宗教的空間から独立し、生活本来の中に存在するものとして理解されてからそう時間は経っていない。ヨーロッパでは市民革命後、公園などの公共空間に彫刻が設置されるようになった。それが、時代を経て建造物や都市空間を構成する一つの要素となっていた。2007年訪れたルーマニアのトルクジウ市においては、街づくりのデザインを当地出身の彫刻家ブランクーシ（1876 - 1957）に依頼して、彼の彫刻《12聖人》、《接吻の門》、《無限柱》をメインストリートに配置して、「生」、「出会い」、「死」、「永遠」人生のサイクルを4つのテーマにし、街のデザインコンセプトとして活用している。建造物と彫刻の関連した施設は、世界中多く見られるが、このような試みの街は、私はこれまで見たことがない。上の彫刻《DORAGOBETHE》は、そのような環境において現地で制作したものである。土地から産出される中軟硬石であるトラバーチン大理石を使い、山と森林、その中を川が流れるのどかな風景の中で、この男女の群像表現で彫刻を制作した。原型となるエスキースは日本を経つ前から準備していたものではあるが、やはり現地に行くとして若干表現は変化してくる。環境が制作者に働きかける何かがあるのであろう。このように彫刻が環境に与えるものだけではなく、環境が彫刻をつくり出すことは近年各地で盛んに行われているビエンナーレ、あるいはトリエンナーレ（註15）として今日日本の各地でも盛んに行われている。

作品《アルカイックとミネルバ》（註16）（写真9）は、蠟型ブロンズ製のものである。本彫刻は、霧島市にあるみやまコンセルのホール内にある。山並みの風景を背景にホールの形状を考慮して設置計画をした。演奏の前後の待合の意味をもつこのホール空間の人の導線に配慮するとともに、霧島の山並みを背景にしたオブジェとして、来場者の心を和ませ空間感の心地よさに配慮した設置ポイントを割り出した。台座には、彫刻がブロンズ製であることから素材の異なる硬石の花崗岩を使用した。同様のテーマで表した《過去と未来》（註17）（写真10）は、2007年4月から1ヶ月にわたり第7回石のさとフェスティバルに招待されて制作したものである。制作地の高松市牟礼町は、大阪城や江戸城の築城にかかわった石の産地であり、職工の町である。ブロンズ作品名《アルカイックとミネルバ》は、アルカイック（古代）は過去を意

味し、それに対してミネルバ（ふくろう）は英知、未来を意味するものとして、対照的なことながらそれぞれクローソ（男性像）と男女が絡み合ったオブジェとして表現したものである。源平古戦場である屋島の対岸に位置し、工房の裏には「那須与一の馬かけ岩」が存在した。1,000年近く前の過去の歴史的出来事と現在、自身の存在を意識しながらの制作であったような気がする。このことは環境が彫刻制作に働きかける例の一つといえる。本来彫刻制作には設置される場所を想定して作られるものが、環境を取り入れたオブジェとして現代社会では常識であるが、この制作シンポジウムにおいては、設置場所は想定されていなかったのであるが、偶然にも図書館前に設置されることで、作者が意図したテーマを表す彫刻として最もふさわしい場所に設置されたことになった。このように、彫刻が建築物やその空間に与える影響ははかりしれない。また、作り手側もその土地の空気や取り巻く環境に触れることで、感性を触発し、創造に結び付けていくことでこのような相乗効果を生み出す。



写真9 窓・シャガールの恋人たち
霧島みやまコンセールホール



写真10 過去と未来 高松市立図書館
サンクリスタル

おわりに

本稿では、1992年から2017年にかけての彫刻制作のなかで考えてきたことについて、1 彫刻の発想について、2 彫刻の構成について、3 彫刻素材と表現について、4 環境と彫刻についてまとめてみた。制作者である筆者の考え方は、表現された彫刻を見れば鑑賞者として幾通りにも解釈されるのであり、あえてその考え方を論ずることは鑑賞者の見方を限定することにさせるのではないであろうか。しかし、本稿では一教員として、次世代を担う彫刻家や指導する教師として巣立っていく学生に、筆者自身が今考える彫刻制作表現法や指導法としてまとめる責務を感じた。今後、今回の主題である「彫刻表現制作法研究 I」での4つの視点をさらに深化させて論じたいと考えている。

註積

註1 筑波大学芸術専門学群卒業制作付帯論文 1981年

註2 筑波大学大学院芸術研究科修士論文 1983年 全103頁

註3 公募展 1995年以降

- フィヨルドの街から～眠れない夜～ FRP W67 × D55 × H173 第71回白日展 1995 (H7.3)
 フィンランディアの森より～萌芽～ FRP W62 × D52 × H180 第25回日彫展 1995 (H7.4)
 時代 FRP W125 × D80 × H185 第27回日展無鑑査出品 1995 (H7.11)
 心の色 FRP W45 × D45 × H175 第50回南日本美術展 1995 (H7.11)
 回帰 FRP W67 × D55 × H178 第72回白日展 1996 (H8.3)
 波 FRP W67 × D55 × H178 第7回明日の白日会展、第60回香川県展 1996 (H8.3) (8.5)
 回帰の予感 FRP W50 × D55 × H182 第26回日彫展 1996 (H8.4)
 もう一人の私 FRP W90 × D75 × H187 第28回日展特選 1996 (H8.11)
 大地との接点 FRP W55 × D45 × H180 第51回南日本美術展 1996 (H8.11)
 故城～夢のまた夢～ FRP W55 × D40 × H180 第73回白日展 1997 (H9.3)
 故城～土～ FRP W47 × D88 × H116 第27回日彫展 1997 (H9.4)
 少年の記憶Ⅱ FRP W200 × D100 × H285 第12回国民文化祭かがわ'97 1997 (H9.3)
 第85回記念白日展 2009 (H21.3)
 オリーブの伝説 FRP W70 × D80 × H185 第29回日展無鑑査 1997 (H9.11)
 女 FRP W30 × D25 × H92 第52回南日本美術展 1997 (H9.3)
 少年の記憶Ⅲ FRP 木 W70 × D60 × H200 第74回白日展 1998 (H10.3)
 未来への出発(たびだち)～青年～ FRP 鉄 W70 × D60 × H200 第27回日彫展 1998 (H10.4)
 未来への出発(たびだち)～女～ FRP W70 × D60 × H190 第63回香川県展 1998 (H10.5)
 dolce - やさしさ '98 FRP W60 × D60 × H185 第30回日展 1998 (H10.11)
 夢語りⅡ FRP W55 × D55 × H135 第75回白日展 1999 (H11.3)
 刻まれた時間 FRP W70 × D50 × H180 第29回日彫展 1999 (H11.4)
 陽のあたる丘にて FRP W50 × D50 × H17 第54回南日本美術展委嘱作家賞 1999 (H11.11)
 女 FRP W60 × D60 × H135 第75回白日展 2000 (H12.3)
 空と海の接点Ⅰ FRP W120 × D60 × H175 第30回日彫展 鹿児島短期大学 2000 (H12.4)
 グノシェンヌ(クノソスの女) 青の断片 FRPW60 × D60 × H135 第77回白日展 2001 (H13.3)
 湖畔にて眠れる使徒 FRP W70 × D55 × H125 第31回日彫展 2001 (H13.4)
 星になった少年 FRP W100 × D80 × H200 第33回日展 2001 (H13.11)
 夢の贈り物 FRP, 石 W25 × D60 × H50 第56回南日本美術展 2001 (H13.11) 第68回香川県展 2003
 ビラ・デル・ビエルゾ教会(スペイン)にて 樟 W60 × D55 × H135 第78回白日展 2002 (H14.3)
 ポセイドンの馬 FRP W60 × D50 × H150 第32回日彫展 2002 (H14.4)
 彫刻家ビッグマリオンの恋 FRP W80 × D60 × H190 第34回日展 2002 (H14.11)
 ロマネスク 青大理石 W50 × D50 × H55 第79回白日展 2003 (H15.3)
 伝説の島にかかる月 ブロンズ W50 × D50 × H165 第35回日展 2003 (H15.11)
 海に抱かれて 石膏 W110 × D50 × H195 第58回南日本美術展 2003 (H15.11) 第85回記念白日展 2009 (H21.3)
 風のささやき FRP W100 × D60 × H185 第80回記念白日展 2004 (H16.3)
 春を呼ぶ男 FRP W50 × D60 × H190 第34回日彫展 2004 (H16.4)
 伝説の島 ブルーパール石 W150 × D100 × H150 第36回日展 2004 (H16)
 伝説の島Ⅱ・さざ波 ブロンズ W75 × D35 × H75 第59回南日本美術展 2004 (H16.11)
 月夜の恋人達 ブロンズ、サヌカイト石 W110 × D35 × H110 第81回白日展 2005 (H17.3)
 伝説の島・照らされる海 ブロンズ、大理石 W140 × D55 × H80 第35回日彫展 2005 (H17.4)
 AMOR ブロンズ W25 × D15 × H125 香川県看護専門学校 2005 (H17) 第41回日彫展 2011 (H23.6)
 窓・シャガールの恋人たち ブロンズ W85 × D85 × H13 第37回日展 2005 (H17.11)
 光の行方、水色の風と遊ぶ FRP W130 × D40 × H200 第60回南日本美術展 2005 (H17.11)
 賢者の鍵 大理石 W37 × D17 × H78 第82回白日展 2006 (H18.3)
 賢者の鍵、Zeitezの人 FRP W64 × D40 × H75 第36回日彫展 2006 (H18.4)
 邂逅・賢者からのメッセージ FRP W110 × D60 × H175 第38回日展 2006 (H18.11)
 葉の花の贈り物 樟 W32 × D35 × H28 第61回南日本美術展 2006 (H18.11)
 絆 FRP W100 × D90 × H180 池川直彫刻展ミウラートヴィレージ三浦美術館 2006 (H18.)
 第60回鹿児島県美術展 会員賞 2013 (H25.5)
 過去と未来 花崗岩 W150 × D70 × H210 第7回石のさとフェスティバル 2006 (H18.5)
 恋人たち 樟 W80 × D65 × H35 第83回白日展 吉田賞 2007 (H19.3)
 陽のあたる丘 FRP W64 × D40 × H75 第72回香川県美術展 2007 (H19.5)

銀河の道	FRP	W110 × D50 × H190	第 37 回日彫展	新国立美術館	2007 (H19.6)
Doragobete	トラバーチン	W200 × D60 × H180	ブランクーシ国際彫刻シンポジウム		
トルクジウ市 (ルーマニア)		2007 (H19.7・16-8・13)			
ルーマニアの森から	ブロンズ	W60 × D30 × H100	第 39 回日展		2007 (H19.11)
銀河のためのマケット	FRP	W40 × D20 × H66	第 62 回南日本美術展		2007 (H19.11)
253 銀河の道	FRP	W110 × D50 × H190	第 84 回白日展	審査員	2008 (H20.3)
260 海の声を開く	FRP	W110 × D45 × H135	第 40 回日展		2008 (H20.11)
鳥を抱く少女	FRP	W18 × D22 × H64	第 73 回香川県美術展		2008 (H20.5)
クノソスの少年、部分 (クノソスの壁画から)	FRP	W58 × D20 × H60	第 85 回記念白日展		2009 (H21.3)
鳥の詩、「永遠」へのアプローチ (都市創世プロジェクト)	FRP	W80 × D50 × H315	第 85 回記念白日展		2009 (H21.3)
海に抱かれて	石膏	W110 × D50 × H195	第 58 回南日本美術展	2003 (H15.11)	第 85 回記念白日展 2009 (H21.3)
少年の記憶Ⅱ	FRP	W200 × D100 × H285	第 12 回国民文化祭かがわ'97	1997 (H9.3)	
			第 85 回記念白日展		2009 (H21.3)
洋洋	FRP, ステンレス	W110 × D80 × H235	第 39 回日彫展		2009 (H21.6)
薩摩犬ロダン	FRP	W70 × D20 × H40	第 74 回香川県美術展		2009 (H21.5)
風景Ⅰ	FRP	W30 × D25 × H105	第 41 回日展		2009 (H21.11)
夢の途中	樟	W20 × D13 × H41	菩提樹 (山形屋)		2009 (H21)
幸せの羽、青い風にのって	FRP	W150 × D50 × H173	長島美術館長賞	第 86 回白日展	2010 (H22.3)
誕生	FRP	W60 × D40 × H182	第 40 回記念日彫展		2010 (H22.6)
ボルテラの詩人	FRP	W110 × D120 × H185	第 42 回日展		2010 (H22.11)
誕生のためのエスキース	FRPW18 × D20 × H37	第 65 回南日本美術展			2010 (H22.11)
うたう人	FRP	W100 × D40 × H175	第 87 回白日展		2011 (H23.3)
銀の滴	ブロンズ	W35 × D20 × H48	第 58 回鹿児島県美術展		2011 (H23.5)
AMOR	ブロンズ	W25 × D15 × H125	香川県看護専門学校設置	2005 (H17)	第 41 回日彫展 2011 (H23.6)
月の明かり	樟	W40 × D40 × H210	南砺市国際木彫刻キャンプ	2011 2011	(H23.8)
少年の記憶～最終章～	FRP	W70 × D60 × H137	第 43 回日展		2011 (H23.11)
月光	FRP	W100 × D40 × H175	第 88 回白日展		2012 (H24.3)
N さん	FRP	W20 × D15 × H25	第 59 回鹿児島県美術展		2012 (H24.5)
風になって	FRP	W190 × D75 × H210	第 42 回日彫展	東京都美術館	2012 (H24.4)
麦の実るころ	FRP	W110 × D100 × H180	第 44 回日展		2012 (H24.11)
夢語りⅢ	FRP	W50 × D60 × H174	第 68 回南日本美術展		2012 (H24.11)
ボルテラの詩人Ⅱ	FRP	W40 × D40 × H147	第 89 回白日展		2013 (H25.3)
幻想エトルスク	FRP	W40 × D30 × H125	第 43 回日彫展		2013 (H25.4)
Homme	FRP	W17 × D21 × H27	第 69 回南日本美術展		2013 (H25.11)
君に会える	FRP	W45 × D45 × H145	第 45 回日展		2013 (H25.11)
光の行方、紺碧の海を遊ぶ	FRP	W145 × D50 × H16	第 68 回南日本美術展		2013 (H25.11)
記憶、ある扉からのメッセージ	FRPW75 × D45 × H142	第 90 回創立記念白日展			2014 (H26.3)
Chihiro'13	FRP	W55 × D60 × H175	第 44 回日彫展		2014 (H26.4)
S さん	FRP	W14 × D21 × H27	第 61 回鹿児島県美術展		2014 (H26.5)
セルブロイ峠 (スペイン) の家	FRP	W45 × D28 × H53	第 88 回香川県美術展		2014 (H26.6)
君に会えるⅢ	FRP	W50 × D50 × H180	改組新第 1 回日展		2014 (H26.11)
ボルテラの詩人—ほら、そこに	FRP	W58 × D58 × H115	第 91 回白日会展		2015 (H27.3)
夢 / ドビュッシーより	FRP	W65 × D55 × H185	第 45 回日彫展		2015 (H27.4)
聖夜	FRP	W45 × D45 × H144	改組新 2 回日展		2015 (H27.11)
私、あなた、あなた、私	FRP	W90 × D30 × H120	第 70 回南日本美術展		2015 (H27.11)
風に在る	FRP	W110 × D50 × H180	第 92 回白日会展		2016 (H28.3)
ここに地始まる—X の旅立ち	FRP	W60 × D50 × H185	第 46 回日彫展		2016 (H28.4)
ドーバーの詩人	FRP	W45 × D45 × H110	第 63 回鹿児島県美術展	会員県美展賞	2016 (H28.5)
			第 81 回香川県美術展		2016 (H28.6)
永遠の刻	FRP	W147 × D70 × H200	改組新 3 回日展		2016 (H28.11)
ワルシャワ 2015 秋Ⅱ	FRP	W60 × D51 × H88	第 93 回白日会展		2017 (H29.3)
ワルシャワ 2015 秋Ⅰ	FRP	W60 × D50 × H175	第 47 回日彫展	西望賞	2017 (H29.4)
ワルシャワ 2015 秋Ⅰのためのエスキース	FRP	W12 × D15 × H31	第 64 回鹿児島県美術展		2017 (H29.5)
			第 81 回香川県美術展		2017 (H29.5)

註 4 コンクール 1995 年以降

カレルの記憶 FRP W125 × D100 × H145 第 10 回橋の美術展大賞坂出市民美術館蔵 1996 (H8.4)

- 青春のわすれもの FRP W35 × D35 × H135 さかいで Art グランプリ '97 1997 (H9.3)
- 註5 個展グループ展 1995 年以降
- 道 ブロンズ W18 × D18 × H39 池川直彫刻展 (高松三越、中村晋也美術館) 1995 制作
- マエストロ FRP W35 × D35 × H55 日本彫刻会新人選抜 BOU 展 朝日生命ビル 1995 (H7.3)
- 風 ブロンズ W14 × D10 × H28 池川直彫刻展 (高松三越、中村晋也美術館) 1998 制作 2000 (H12.2)
- 愛犬ロダンの夢 ブロンズ W26 × D24 × H54 池川直彫刻展 (高松三越、中村晋也美術館) 2000 (H12.2)
- 花 ブロンズ W14 × D10 × H28 池川直彫刻展 (高松三越、中村晋也美術館) 2000 (H12.2)
- 想 ブロンズ W12 × D10 × H18 池川直彫刻展 (高松三越、中村晋也美術館) 2000 (H12.2)
- 風の詩 ブロンズ W12 × D12 × H35 池川直彫刻展 (高松三越、中村晋也美術館) 2000 (H12.2)
- オリーブの伝説エスキース ブロンズ W11 × D10 × H26 池川直彫刻展 (高松三越、中村晋也美術館) 2000 (H12.2)
- 眠る犬 ブロンズ W11 × D7 × H3 池川直彫刻展 (高松三越、中村晋也美術館) 2000 (H12.2)
- Chien Rodin ブロンズ W14 × D14 × H11 池川直彫刻展 (高松三越、中村晋也美術館) 2000 (H12.2)
- 馬と少年 ブロンズ W35 × D25 × H38 池川直彫刻展 (高松三越、中村晋也美術館) 2000 (H12.2)
- 残されたピアノ FRP W90 × D55 × H135 日本彫刻会新選抜 '99 (銀座青羅) 1999 (H11.7)
- 空と海の接点のためのエスキース ブロンズ W34 × D15 × H36 池川直彫刻展 (高松三越、中村晋也美術館) 2000 (H12.2)
- きざし ブロンズ W14 × D10 × H28 池川直彫刻展 (高松三越、中村晋也美術館) 2000 (H12.2)
- ケルトの家 ブロンズ W22 × D20 × H13 池川直彫刻展 (高松三越、中村晋也美術館) 2000 (H12.2)
- ある愛 I ブロンズ W25 × D20 × H30 池川直彫刻展 (高松三越、中村晋也美術館) 2000 (H12.2)
- ある愛 II ブロンズ W13 × D7 × H37 池川直彫刻展 (高松三越、中村晋也美術館) 2000 (H12.2)
- 聖なる家 ブロンズ W25 × D12 × H42 池川直彫刻展 (高松三越、中村晋也美術館) 2000 (H12.2)
- 香りにつつまれて ブロンズ W20 × D18 × H38 池川直彫刻展 (高松三越、中村晋也美術館) 2000 (H12.2)
- 丘の上の女 ブロンズ W12 × D10 × H36 池川直彫刻展 (高松三越、中村晋也美術館) 2000 (H12.2)
- 旅～サンティアゴへの道 ブロンズ W20 × D18 × H38 池川直彫刻展 (高松三越、中村晋也美術館) 2000 (H12.2)
- パザールの母子 ブロンズ W22 × D8 × H35 池川直彫刻展 (高松三越、中村晋也美術館) 2000 (H12.2)
- 空へ ブロンズ W16 × D10 × H37 池川直彫刻展 (高松三越、中村晋也美術館) 2000 (H12.2)
- うたかた ブロンズ W20 × D20 × H34 池川直彫刻展 (高松三越、中村晋也美術館) 2000 (H12.2)
- 旅人の捧げるオマージュ FRPW45 × D45 × H235 池川敏幸、直彫刻展 (愛媛県美術館) 2001 (H13.5)
- 日展鹿児島会 10 周年記念展 (山形屋文化ホール)
- La Mer FRP W25 × D15 × H45 想刻展 鹿児島サンエール 2002 (H14)
- ロマネスク FRP W15 × D10 × H35 想刻展 鹿児島サンエール 2002 (H14)
- オータンの記憶 樟 W60 × D55 × H135 日本彫刻会新選抜 '99 G. 青羅銀座 2002 (H14)
- つわもの夢 OSAKA 石膏 W7 × D5 × H30 想刻展 鹿児島県民交流センター 2004 (H16.2)
- いのち 石膏 W100 × D100 × H30 想刻展 鹿児島県民交流センター 2004 (H16.2)
- ロマネスクの窓 石膏 W15 × D5 × H30 想刻展 鹿児島県民交流センター 2004 (H16.2)
- 12 月の僕 ブロンズ W15 × D20 × H50 2004 (H16)
- 池川直彫刻展 (高松三越、ミウラートヴィレージ三浦美術館) 2006 (H18)
- 時をかける人 ブロンズ W10 × D5 × H45 2004 (H16)
- 池川直彫刻展 (高松三越、ミウラートヴィレージ三浦美術館) 2006 (H18)
- さざ波のためのエスキース ブロンズ W15 × D5 × H30 2004 (H16)
- 池川直彫刻展 (高松三越、ミウラートヴィレージ三浦美術館) 2006 (H18)
- ナバーラの月 ブロンズ、サヌカイト W50 × D25 × H50 第4回日本彫刻会新精鋭選抜展 2004 (H16)
- Nudetez ブロンズ W6 × D5 × H35 池川直彫刻展 (ギャラリーオカバ) 2005 (H17.3)
- 邂逅のためのマケット FRP W7 × D6 × H6 池川敏幸、直彫刻展 (高松三越) 2006 (H18)
- 残された記憶ーボセイドンの馬 ブロンズ W7 × D17 × H42 池川敏幸、直彫刻展 (高松三越) 2006 (H18)
- 切り取られた記憶ーブルゴーニュ A ブロンズ W7 × D7 × H13 池川敏幸、直彫刻展 (高松三越) 2006 (H18)
- 切り取られた記憶ーブルゴーニュ B ブロンズ W7 × D5 × H3 池川敏幸、直彫刻展 (高松三越) 2006 (H18)
- 切り取られた記憶ー冬のディジョン ブロンズ W10 × D6 × H9 池川敏幸、直彫刻展 (高松三越) 2006 (H18)
- 切り取られた記憶ーナバーラの断層 ブロンズ W10 × D5 × H3 池川敏幸、直彫刻展 (高松三越) 2006 (H18)
- 天空のふたり ブロンズ W28 × D10 × H35 池川敏幸、直彫刻展 (高松三越) 2006 (H18)
- 2003 年星降る夜の街 ブロンズ W25 × D20 × H48 池川敏幸、直彫刻展 (高松三越) 2006 (H18)
- 天使の椅子 ブロンズ W17 × D16 × H38 池川敏幸、直彫刻展 (高松三越) 2006 (H18)
- 天使の羽 ブロンズ W14 × D8 × H40 池川敏幸、直彫刻展 (高松三越) 2006 (H18)
- 絆 FRP W100 × D90 × H180 池川直彫刻展 ミウラートヴィレージ三浦美術館 2006 (H18.)
- 第60回鹿児島県美術展 会員賞 2013 (H25.5)
- 謳う FRP W35 × D15 × H21 池川直彫刻展 ミウラートヴィレージ三浦美術館 2006 (H18.)
- 遺跡 I ブロンズ W18 × D15 × H16 池川直彫刻展 ミウラートヴィレージ三浦美術館 2006 (H18.)
- Composition I (フィレンツェのピエタ) 大理石 W26 × D25 × H58

- 池川直彫刻展 ミウラートヴィレージ三浦美術館 2006 (H18.)
 Composition II (フィレンツェのピエタ) ブロンズ W26 × D25 × H58
 池川直彫刻展 ミウラートヴィレージ三浦美術館 2006 (H18.)
 邂逅のためのマケット II ブロンズ W20 × D13 × H25 池川直彫刻展 ぎやらりーサムホール 2007 (H19.7・16-23)
 Doragobete トラバーチン W200 × D60 × H180 プランクーシ国際彫刻シンポジウム
 トルクジウ市 (ルーマニア) 2007 (H19.7・16-8・13)
 ST.Xの肖像 ブロンズ W20 × D20 × H50 第6回日彫会新選抜展ギャラリー青羅 2008 (H20.3・30~4・12)
 海の声を開くエスキース FRP W20 × D8 × H40 2008 (H20)
 池川直彫刻展 ぎやらりーサムホール (銀座) 2012 (H24.10・11~18)
 洋洋のためのエスキース FRP W24 × D12 × H45 2009 (H21)
 池川直彫刻展 ぎやらりーサムホール (銀座) 2012 (H24.10・11~18)
 夢の途中 樟 W20 × D13 × H41 菩提樹 (山形屋) 2009 (H21)
 鳥の詩、「永遠」へのアプローチ のためのエスキース FRP W10 × D10 × H47 2009 (H21)
 池川直彫刻展 ぎやらりーサムホール (銀座) 2012 (H24.10・11~18)
 クノソスの少年 FRP W58 × D20 × H60 2009 (H21)
 池川直彫刻展 ぎやらりーサムホール (銀座) 2012 (H24.10・11~18)
 伝説 海 FRP W17 × D10 × H49 2009 (H21)
 池川直彫刻展 ぎやらりーサムホール (銀座) 2012 (H24.10・11~18)
 星降る夜 樟 W24 × D17 × H59 菩提樹 (山形屋) 2011 (H23)
 幸せの羽、青い風にのってエスキース FRP W37 × D10 × H40 2011 (H23)
 池川直彫刻展 ぎやらりーサムホール (銀座) 2012 (H24.10・11~18)
 ボルテラの詩人のためのエスキース FRP W18 × D20 × H37 2010 (H22)
 池川直彫刻展 ぎやらりーサムホール (銀座) 2012 (H24.10・11~18)
 隨身像のためのエスキース 左 FRP W18 × D20 × H37 2010 (H22)
 池川直彫刻展 ぎやらりーサムホール (銀座) 2012 (H24.10・11~18)
 隨身像のためのエスキース 右 FRP W27 × D17 × H49 2010 (H22)
 池川直彫刻展 ぎやらりーサムホール (銀座) 2012 (H24.10・11~18)
 月の明かり 樟 W40 × D40 × H210 南砺市国際彫刻キャンプ 2011 2011 (H23.8)
 夢を見る犬 FRP W20 × D20 × H45 ぎやらりーサムホール (銀座) 2012 (H24.10・11~18)
 麦の実るころ 青年の頭像のためのマケット FRP W16 × D22 × H30
 池川直彫刻展 ぎやらりーサムホール (銀座) 2012 (H24.10・11~18)
 ボルテラの詩人IIのためのエスキース FRP W17 × D10 × H35 2014 (H26.5)
 池川直彫刻展 ぎやらりーサムホール (銀座) 2014 (H26.11)
 ボルテラの詩人III 樟 W20 × D12 × H38 第10回菩提樹展 山形屋 2014 (H26.5)
 池川直彫刻展 ぎやらりーサムホール (銀座) 2014 (H26.11)
 セルブロイ峠 (スペイン) の家 FRP W45 × D28 × H53 香川県美術館 2014 (H26.6)
 池川直彫刻展 ぎやらりーサムホール (銀座) 2014 (H26.11)
 あなた、私・私、あなた FRPW16 × D22 × H30
 池川直彫刻展 ぎやらりーサムホール (銀座) 2014 (H26.11)
 幻想エトルスクのためのエスキース FRP W16 × D10 × H36
 池川直彫刻展 ぎやらりーサムホール (銀座) 2014 (H26.11)
 犬と女 FRP W17 × D8 × H28 池川直彫刻展 ぎやらりーサムホール (銀座) 2014 (H26.11)
 錦江の月 FRP W10 × D7 × H40 池川直彫刻展 ぎやらりーサムホール (銀座) 2014 (H26.11)
 幸せの家 FRP W22 × D15 × H24 池川直彫刻展 ぎやらりーサムホール (銀座) 2014 (H26.11)
 紙飛行機と少年 FRP W22 × D8 × H30 池川直彫刻展 ぎやらりーサムホール (銀座) 2014 (H26.11)
 トスカーナの記憶 FRP W16 × D10 × H40 池川直彫刻展 ぎやらりーサムホール (銀座) 2014 (H26.11)
 君に会える II FRP W47 × D25 × H92 池川直彫刻展 ぎやらりーサムホール (銀座) 2014 (H26.11)
 香川県展 90周年記念展 香川県立ミュージアム 2015 (H27.11)
 あなた、わたし、わたし、あなたエスキース FRP W25 × D5 × H35 国民文化祭かごしま
 県美協会会員展 鹿児島県歴史資料センター黎明館 2015 (H27.11)
 県美協会会員作品展 山形屋 6階大ホール 2016 (H28.5)
 戯れ FRP W25 × D25 × H60 第5回鹿児島白日会鹿児島県歴史資料センター黎明館 2016 (H28.4)
 註6 新美術新聞 (株) 美術年鑑社 No.1334 日々好日より抜粋 2014年 (H26.2.1)
 註7 第42回日展 東京都美術館 2010年 (H22.11) W110 D120 H185 FRP
 註8 第35回日彫展 東京都美術館 2005年 (H17.4) W140 D55 H80 ブロンズ

- 註9 第35回日展 東京都美術館 2003年 (H15.11) W550 D50 H165 ブロンズ
註10 第36回日展 東京都美術館 2004年 (H16.11) W165 D80 H165 ブルーパール石
註11 池川敏幸、直彫刻展 高松三越 2006年 (H18) W28 D10 H35 ブロンズ
註12 第39回日展 東京都美術館 2007年 (H19.11) W60 D30 H100 ブロンズ
註13 ブランクーシ国際彫刻シンポジウム ルーマニア 2007年 (H19.7～8.13) トラバーチン大理石
註14 第83回白日会展 吉田賞 東京都美術館 2007年 (H19.3) 樟
註15 ビエンナーレは2年に1度、トリエンナーレは3年に1度開かれる美術展覧会のこと。
1895年ヴェネツィアで開催された現代美術の国際美術展覧会がその起源といわれる。
その後日本各地でも盛んに行われている。
註16 第37回日展 東京都美術館 2005年 (H17.11) W60 D60 H85 ブロンズ
註17 第7回石のさとフェスティバル 高松市 2006年 (H18) W150 D60 H210 花崗岩

参考資料

文中作品のa～d図版 下中菱さん（鹿児島大学4年生）作品